



問 「生活習慣病の漢方治療とは

どのようなものですか？」②

答 肥満と関係が深い「糖尿病」「高血圧」「脂質異常症」などの生活習慣病に関する漢方治療について、日本東洋医学会が出版している「漢方医学テキスト」には記載されていますが、当院でよく処方されるお薬に関して、お話しています。

今回は、「四物湯」です。四物湯は「和剤局方」という書物で紹介されています。構成生薬は、当帰、地黄、芍薬、川芎です。もともとは、女性の体調を調えるお薬で、気の流れや血の流れを調べて、生理を順調にし、お腹の痛みに効果があります。不正出血や血の塊にも有効です。妊娠中に冷えたりして、調子を崩し、胎動が不安定で、出血が止まらないときにも使用します。また、産後、からだが弱っているときに冷えたり

して、出血が止まらなかったり、血が固まったりして、下腹が堅くなったりして激しく痛むときにも使用します。

図1は、私の漢方の師匠が描かれた四物湯の腹証図です。下腹に注目してください。血の流れや水の流れが悪いために、触ると堅くなり、押さえると痛みがあることを表しています。

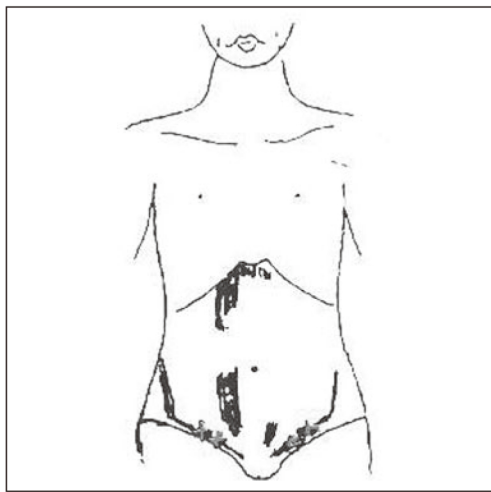


図1

甘草を加えた処方です。芎帰膠艾湯も、四物湯と同様に、もともとは、女性の体調を調えるお薬です。やはり、下腹に所見があります。

生活習慣病では、下腹の血の流れや水の流れが悪くなっている方がたくさんいらっしゃり、四物湯や四物湯を構成成分として含むお薬（温清飲など）を処方することがよくあります。女性だけでなく、男性にも処方しています。

図2は、江戸時代に出版された「腹証奇覽翼」に掲載されている「芎帰膠艾湯」の腹証図です。芎帰膠

艾湯は、四物湯に、阿膠、艾葉、



図2